



石川県議会
マスコットキャラクター
石若丸
いし わか まる

県議会だより いしかわ

議場で OEKが演奏 復興への願いを 旋律にのせ

2月25日の定例会開会を前に、「オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)」による演奏が行われ、広上淳一OEKアーティストティック・リーダーによる指揮の下、情感あふれる旋律とハーモニーが議場内を包みました。

昨年1月に発生した令和6年能登半島地震以降、OEKは被災地での慰問公演や、全国各地でのチャリティーコンサートを実施し、音楽を通じた支援の輪を広げてきました。この日は被災地への思いを込め、岡野貞一作曲の「ふるさと」など4曲を披露しました。



今号の
トピックス

- 県議会ダイジェストvol.4
- 輪島市内で犠牲者追悼式
- いしかわ伝統工芸フェアが30周年
- 拉致被害者の家族らが現状訴え

県議会 ダイジェスト

Vol.4

定例会や常任委員会などで意見を述べたり質疑を行ったりすることで、県民の皆様の要望や思いを県政に届け、県の取り組みに反映させる、これは、議員の重要な役割の一つです。令和6年12月定例会や常任委員会から9人が行った質疑をピックアップして紹介します。

※各議員・委員の二次元コードから、質疑の映像又は会議録をご覧いただけます。

代表質問

横山 隆也

よこやま たかや

3期 自由民主党



旧県立図書館の 跡地について

Q 旧県立図書館の跡地の活用について、隣接する社会福祉会館の移転後に併せて取り壊し、緑地化することとしているが、未使用の建物が残り続けることは景観面、防犯面で好ましくないことから、旧図書館を先行して取り壊し、緑地化してはどうか。

A 旧図書館と社会福祉会館の跡地については、一帯を緑地化することで憩いの場を設け、賑わいを創出したいと考えている。しかし、社会福祉会館の移転があと4、5年程度かかることから、旧図書館が現状のままであることは景観上、また、防犯上の観点からも好ましくないと考えており、来年度、旧図書館の解体を先行して行うこと、また、それに伴う跡地の暫定的な利用について検討したい。



一般質問等

福村 章

ふくむら あきら

12期 自由民主党



県産農産物の 海外PRについて

Q 農業の将来を考えると、米の消費拡大や農産物のブランド化も重要だが、これからは海外の富裕層などへのPRを強化するなど海外戦略が必要ではないか。県として今後どのような対策を考えているのかを聞く。

A 本県農産物の海外輸出に関する取り組みがまだ十分でないことは認識している。香港やシンガポールにはアンテナショップがあることから、そうした国もターゲットにしつつ、ルビーロマンなど本県の特色ある農産物を売り出すことなどにしっかりした戦略を立てて取り組めるよう、今後、先進県の事例も参考にしながら、関係機関と連携していきたい。



紐野 義昭

ひもの よしあき

9期 自由民主党



オーバーツーリズム 対策について

Q 金沢市内では既にオーバーツーリズムが生じていて、県としても意見交換の場を設けるなどして、その対策に乗り出していると思うが、一方でこうしたことはスピード感が重要であり、具体的にどのような対策を実施しようと考えているのか。

A 2回の意見交換会等で得られたのは、分散化、可視化、マナーの啓発の徹底という3つのキーワードであり、金沢に集中している観光客に時間・季節・場所を分散していただくために混雑状況の可視化をしたいと考える。また、マナーについては、住民が困っている声をきちんと啓発グッズに載せるとともに、石川県・日本に来る前に新幹線や飛行機でも啓発できるよう、同様な悩みを持つ自治体とともに声を上げ、取り組みを進めたいと考えている。



作野 広昭

さくの ひろあき

6期 自由民主党



奥能登の 高齢者施設再開について

Q 奥能登の高齢者施設に入所していた方々が希望どおりに地元に戻るよう、施設の復旧は進んでいるのか。市町が必要見込みを立てて事業者の希望も聞き取りながら進めていくと承知しているが、県としても何らかの支援をすべきではないか。

A 能登の高齢者施設の入所者について、発災後最大1600人の方々が金沢以南の施設などに避難した。被災地の復旧が進むとともに順次戻ってもらえるようケアマネジャーとも連携し、施設のマッチングを進めた結果、避難者の人数はかなり減っている。1人でも多くの希望者が地元に戻るよう、施設の復旧や職員のマッチングなども含め、事業者の課題に寄り添い、市町とも連携しながら、どんな支援ができるか検討していきたい。



川 裕一郎

かわ ゆういちろう

4期 参政党



GIGAスクール構想の 懸念について

Q スウェーデンでは、デジタルデバイスの導入を義務づけた教育庁の決定を撤回し、教科書は印刷された素材と定義され、アナログに戻っていると聞く。他国でも教育に関して脱デジタルの動きがあるが、ICT教育に関して知事の認識を聞く。

A ICT教育は、コロナ禍での授業や、調べ学習などに有効活用できるが、しっかりと活字を読み、話し合いをして回答を導き出すというプロセスは、極めて重要であると感じている。デジタルとアナログのバランスを取りながらICT教育を推進する必要があると考えており、文科省に対しても求めていく。



室谷 弘幸

むろや ひろゆき

4期 自由民主党



人口減少対策について

Q 県内全体で就職期を迎えた女性の人材流出が際立つ。若年女性の定着に向け、さらなる取り組みの強化、特に消滅可能性自治体とされた9市町との連携について考えを聞く。

A 若年女性の定着を図るには、就職期の若者の県内定着を促進することが重要と考えており、県では、学生に県内企業を知ってもらうため、就活の段階に応じたマッチング機会を提供するほか、県内企業の若手女性社員が職場の魅力をPRする場を提供している。さらに、結婚や子育て等を機に地元に戻る可能性を示唆する女子学生も多いことから、市町とも連携し、移住・定住の促進にも努めている。引き続き、若年女性のみならず、若者の県内定着に取り組んでいきたい。



一川 政之

いちかわ まさゆき

3期 未来石川



産業技術専門校について

Q 県内には4つの産業技術専門校があるが、設置当時と現在では社会環境も大きく変わっていると思われる。県として、産業技術専門校が今後どんな役割を果たしていくべきと考えているのか。

A 各校では、若年者・在職者・離職者・発達障害者など幅広い対象者に対し、それぞれに応じた職業訓練を的確に実施している。これまでも、時代の変化に応じて、訓練科の新設・再編をはじめ、カリキュラムの見直しや、それに応じた設備機器の整備・更新などを行ってきた。今後も公共の訓練校として、時代の変化に的確に対応し、企業・社会が求める人材をしっかりと育成していきたい。



長田 哲也

ながた てつや

2期 自由民主党



金沢港クルーズ船の 実績と今後について

Q 日本へのクルーズ船の寄港は今後もさらに拡大すると見込まれる。金沢港の賑わいだけでなく、能登の復興に向けた応援消費等も期待できるクルーズ船の誘致に、県として、今後、どう取り組んでいくのか。

A 兼六園やひがし茶屋街など世界的に評価の高い観光資源が、金沢港から5km圏内に集積する優位性を活かし、クルーズ見本市への出展や寄港地の決定権を持つ船会社幹部の招へいなど、積極的・戦略的な誘致活動を行っていく。また、来期も引き続き、能登の応援消費の促進とともに、「今行ける能登」のオプションツアー造成を、船会社や旅行会社に働きかけるなど、クルーズ船寄港が金沢港の振興はもとより、能登の復興にもつながるよう取り組んでいきたい。



小松 実

こまつみのる

1期 公明党



住宅被災判定の デジタル化について

Q 本県において被災者生活再建支援システムは被害認定調査の迅速化・効率化にどう活用できたのか。また、罹災証明書のオンライン申請やコンビニ交付はできるのか。国推奨のクラウド型システム導入への考えと併せて聞く。

A 県では、令和5年7月に当システムを構築し、能登半島地震では県内15の市町で活用されている。モバイル端末に表示される項目を選択すると、現地で容易に認定ができ、その結果は瞬時に被災者台帳に反映され、短期間で罹災証明書の発行が可能となっている。オンライン申請は、全市町で既に受付を開始しており、コンビニ交付は来年度からの実施を目指して準備している。デジタルを活用した被害認定の迅速化について、全国の事例を参考に、市町の意見を聞き、研究したい。



県政TOPICS 01

輪島市内で犠牲者追悼式

445人が地震、豪雨の犠牲者を悼む黙とう

令和6年能登半島地震の発生から1年を迎えた1月1日、輪島市の日本航空学園能登空港キャンパス体育館で県主催の「能登半島地震・奥能登豪雨犠牲者追悼式」が営まれました。能登半島地震と9月の奥能登豪雨の犠牲者を悼むため、遺族や被災自治体関係者、石破茂首相ら計445人が参列しました。県議会からも善田善彦議長をはじめ、多くの議員が参列しました。馳浩知事は「遺族の悲しみは計り知れず、胸が締めつけられる思いです。国や全国の自治体からの支援、民間の力もお借りし、創造的復興に取り組んでまいります」と復興に向けた決意を述べました。



地震発生時刻の午後4時10分に合わせて黙とうをささげました

県政TOPICS 02

いしかわ伝統工芸フェアが30周年

都内の会場に約4万3000人が来場

「いしかわ伝統工芸フェア2025」が2月7日から9日まで東京国際フォーラムで開催されました。本イベントは、石川県の伝統工芸品を一堂に集め、展示・販売を通じて販路拡大を図ることを目的に毎年実施しています。節目の30回目となる今回は、能登半島地震、奥能登豪雨と二度の大災害を乗り越え、復興に向けて歩み出した県内の工芸産地から36業種38店舗が出展。輪島塗、九谷焼、山中漆器、加賀友禅、牛首紬など、約2万点の工芸品が並びました。会場には3日間で約4万3000人が訪れ、匠の技が生み出す逸品の数々に来場者は目を輝かせていました。



開催初日、テープカットをする関係者

県政TOPICS 03

拉致被害者の家族らが現状訴え

金沢市内で「国民の集い」

2月24日、北朝鮮による拉致被害者の家族らが早期解決を訴える「拉致問題を考える国民の集いin石川」を政府と県、拉致問題解決促進県議会議員連盟などの主催により金沢市内で開催しました。約300人が参加する中、拉致被害者・横田めぐみさんの弟の拓也さん、行方不明者・寺越昭二さんの長男の昭男さん、三男の内田美津夫さんが登壇し、再会への望みを訴えました。また、「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」会長の西岡力さんが拉致問題の最新情勢についてのご講演を、さらに、金沢錦丘高校1年の朝日ひまりさんから若い世代の貴重な意見を発表いただくなど、拉致問題を改めて考える貴重な機会となりました。



拉致問題解決促進県議会議連の米澤賢司会長があいさつしました

県議会の活動を伝える広報紙

県議会
だより
第52号

編集・発行 / 石川県議会 (年4回発行)
令和7年3月31日発行

●お問い合わせ 石川県議会事務局企画調査課

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076 (225) 1036 FAX 076 (225) 1037

石川県議会 ホームページ <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/gikai/>

石川県議会

検索



県議会に対する
ご意見・ご提言を
お寄せください。

県議会では、県民の声を取り入れた運営に力を注いでいます。ご意見やご提言は、下記のE-mailからもお送りいただけます。ぜひ皆さまの思いを、県議会にお伝え願います。

メールアドレス
gikai@pref.ishikawa.lg.jp